

# cafe通信 スノードロップ

平成26年2月号 vol.2

## スノードロップをモチーフにした シンボルマークが出来上がりました

法人の理事でもある田中哲夫さんが、スノードロップの花をモチーフにNPO法人のシンボルマークを作ってくださいました。今後はこのニュースレターだけでなく、NPO法人での様々な場面で活用させていただきます。田中さん！ありがとうございます。



## 第1回研修会を開催しました

60名の参加  
でした

平成25年12月14日(土)に守山市コミュニティーホールにて研修会を行いました。講師を務めましたのは、藤本直規理事長と奥村典子さんです。今回のテーマは「もの忘れカフェの作り方～藤本クリニックの実践から～」と題して、著書である「もの忘れカフェの作り方」をテキストに行いました。研修の中で紹介されたNPOの取り組みの中心となる言葉をまとめてみました。

ケアの根拠は、本人の行動や言葉の中にある  
認知症の人と真正面から向き合う

自分で決めてもらうことを大切に  
今ある力を引き出すためには準備がいる  
境界線の見極めは重要



研修のスライドではデイサービス参加者が描かれた絵を挿絵として使わせていただきました

ケアを非薬物治療と意識することから始まる  
若年から高齢者まで 軽度から重度まで  
どんな場面にも手がかりときっかけが必要

わからなくなったら、本人に聞いてみる  
振り返りながら前へ進む  
行ったり来たりの繰り返し  
原則はそれほど変わらない

「この研修で学んだことを、すぐにでも自分の職場で実践したい」という感想が寄せられました。今後もこのような研修を定期的に計画していきます

## 第3回滋賀県認知症医療とケアフォーラム開催

「認知症の理解と合理的なケア」 東京都立松沢病院院長 齋藤正彦先生

齋藤先生は、「認知症の自己像の変化」として、

- ①記銘力障害、時間見当識障害は、今の変容、混乱、喪失
- ②遠い記憶の喪失は、人生史の混乱、喪失
- ③場所の見当識を失うことは、根を生やすべき「ここ」がわからない
- ④人間に関する見当識を失うことは、人とのつながりが混乱

と冒頭に話されました。続いて、どうすればわかりやすい環境や援助ができるのかということ具体的な実践例を通じてお話しされました。例えば、日付けをわかりやすく伝えるために、見えやすい材質のボードの検討や書体を考えることなどが大切であると話され、私たちが日頃活用しているにも関わらず、見過ごしがちであることに気づかされた内容の数々でした。

最後に、対応の基本として、

『患者は生きる「主体」であって、ケアされる「客体」ではない。』

患者は虚構の世界に安住していない。

患者は現実の世界とのつながりを探している

患者の虚構に合わせる＝ケアする人の怠慢

だからこそ、早期診断、早期介入が重要であり、治療者に必要なのは、患者の不安から逃げ出さない勇気なのだと言及しくもあり、優しくもある齋藤先生の語りで締めくくられました。



「パーソン・センタード・ケアの真の意味」

いまいせ心療センター副院長兼認知症疾患医療センター長 水野裕先生

水野先生は、認知症を抱えて生きる人たちの心理学的ニーズ（潜在的なニーズ）について丁寧にお話しをして下さいました。お話しが進む中でパーソン・センタード・ケアは、合理的かつ、実践的な考え方であるということ、様々な実践例を通じてひもとして下さいました。

例えば、「価値は変わらない」「価値を認める」の真の意味として、

キッチンと身体の病気を見よう

- ・食欲が落ちているのに、歯はどうか、身体の不快感は？と考えないのは、どうせ、わからないと  
思っていないか
- ・『目が悪いのは、認知症のせいです』と決めつけ、メガネの調整や、白内障の手術なんてやったって  
ムダと思っていないか
- ・相手にちゃんと話しかける努力をしないのは、会話がちんぷんかんぷんだし、どうせ忘れるし…  
と思っていないか

など、ストレートに日頃を振り返ることができるお話しの数々でした。

最後にパーソン・センタード・ケアの真の意味として、「その人らしさの尊重」「その人を中心としたケア」…は、それはそれですばらしいだろう。しかし、それがパーソン・センタード・ケアだと言われたら、明確に違うと答える。

真に意味するものは…

認知症になっても、人権はある

認知症の有無で、存在価値（人権）が、損なわれるような社会を変革すること

わかる、わからないの問題ではない

と力強く、繰り返し私たちに話し続けて下さったことがとても印象に残りました。



# もの忘れカフェの仲間たち+藤本クリニックの立場からお話をさせていただきました その時のスライドの一部を紹介します

第3回滋賀県認知症医療とケアフォーラム  
2014年1月12日

認知症の医療とケアの実践  
～藤本クリニックの取り組みから～



私たち一人一人が必死に取り組んでいることについて、今日、お話しをさせていただけること心から感謝いたします。 藤本クリニック一岡

本スライドの無断使用・無断引用はお断りいたします

具体的な実践を理念へ  
理念を具体的な実践へ

藤本クリニックデイサービスセンターの理念

私達は病気を抱えながらも①「今」を生きる人たちを全力で応援し、②出来なくなったことがあってもそれを受け入れ、今、③出来ることへと変えるケアを行います。その人の④可能性を諦めず、そのための工夫も惜しみません。

具体的な実践を理念へ  
理念を具体的な実践へ

藤本クリニックの理念

私達は、①適切な治療とケアの環境、家族への支援を提供することによって、患者さんと家族が②尊厳を保ちながら暮らすことを信じて、最大限の努力を行います

①医療とケアの両方が行き交いながら、両方の視点で同等に議論をする。  
本人と家族の両方である。

②わからないから、常に尊厳とは何かを考える。困難なことだからこそ、信じ続けることが大切。

具体的な実践を理念へ  
理念を具体的な実践へ

①「今」を生きる人たち  
今日と明日は違う、さっきと今は違う、だから考え、実践し続けなければならぬ「情報」にとらわれない

②出来なくなったことがあってもそれを受け入れ  
出来なくなったことを真ん中にして書く・話す  
本人も私たちも、出来なくなったことから逃げない

③出来ることへと変えるケア  
できないことを受け入れてこそ、次のことが考えられる  
すべてができなくなるのではない  
リハビリテーションは可能である

④可能性を諦めず、そのための工夫も惜しみません  
あきらめているのは誰か  
うやむやにしているのは誰か  
工夫をしないのは誰か

Rehabilitationは、re(再び、戻す)とhabilita(適した、ふさわしい)から成り立っています。つまり、単なる機能回復ではなく、「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしく生きることが重要で、そのために行われるすべての活動がリハビリテーションなのです。http://rehanavi.com/aboutnha.php

## ご参加いただいた皆さまから多くの感想をいただきました

今まで習ってきたことを覆すような話をいっぱい聞くことができて良かった。知っていたと思っていたことが実はこうだったんだとためになりました。認知症のケアは人によって対応が違うのでケアは大変ですが、病気の理解が対応に関わってくるのでこのような講義はうれしいです。

藤本クリニック  
スタッフの思い

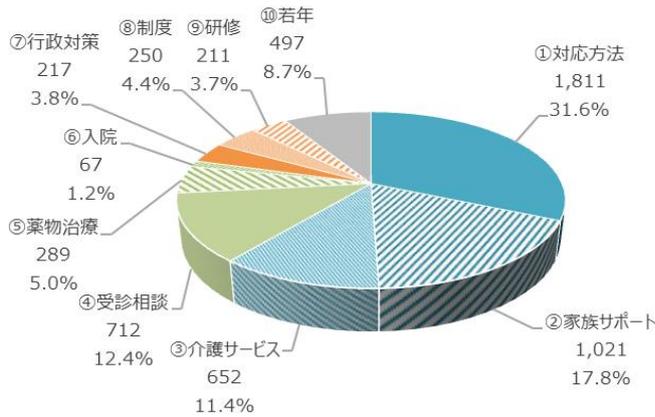
認知症に向かい合っとうでなければいけないでなく、いかに個々の方に合わせたケアを考えていくことの大切さを理解できた。

明日からの仕事に生かすため  
「逃げず」に「アクションを起こして待つ」ことを考えていこうと思います。

### 具体的な実践を理念にすること、理念を具体的な実践にすること

理念を何度も振り返り、読み上げ考えてみました  
人と病気・・・尊厳・・・可能性を諦めない・・・今を生きる・・・  
たくさんの大切な言葉に負けてしまいそうにもなりますが、  
私たちにできることはたったひとつ、**最大限の努力！！**だと心に決めました

「もの忘れサポートセンター・しが」の8年間の相談状況



相談内容は、  
 「対応方法」が1,811件（31.6%）  
 「家族サポート」1,021件（17.8%）  
 「受診相談」が712件（12.4%）  
 「介護サービス」が652件（11.4%）  
 の順でした。

ご家族も専門職も関わり方について困難さを感じていることがわかりました。（今後、このレポートを様々な形で活かしていきたいと思います。詳細のレポートについてはお問い合わせ下さい）

「もの忘れサポートセンター・しが」は、平成17年より藤本クリニックが滋賀県からの委託事業としてスタートし、県内の認知症の人・ご家族の自立を支える地域づくりや人材づくりのバックアップや、医療と認知症介護のネットワークの拠点として、医療・福祉・保健等の専門職に対する相談や技術支援を行っています。



2014年カレンダー作成

もの忘れカフェの仲間たちの作品とメッセージで作られた2014年のオリジナルカレンダーを販売させていただきました。お陰さまでご好評いただき、100部以上販売することができました。作成するにあたり、ご本人からのメッセージをぜひ皆様にお伝えたく、今回はカレンダーの前に**もの忘れがある生活の中で気を付けていること**と題して、仲間たちからのメッセージを1ページ付け加えさせていただきました。来年のカレンダーもまた皆様にお届けしたいと思います。お楽しみに！！

会員募集のお知らせとお礼

1月15日の段階で正会員（91名）、賛助会員（16名）の方のご加入をいただきました。会員の皆様のお気持ちに応えられる様にご利用からも頑張っております。本当にありがとうございます。

正会員 会費 3,000円（年間）  
 賛助会員 会費 10,000円 1口以上（年間）  
 詳しくは 藤本クリニックまで

平成26年度総会のご案内

26年度総会を平成26年5月24日（土）に予定しております。  
**場所はピアザ淡海 207会議室**です。  
 特別講演会として、**松本診療所ものわすれクリニック院長 松本一生先生**に「**認知症 共感からはじまる理解～藤本クリニックに学ぶ多くのこと～**」と題してご講演をいただく予定です。ぜひ、ご参加下さい。

編集後記 ～MONOWASURE～

前回の発行から2回の研修を行いました。自分が学んだことを他の人に伝えていくことの難しさを感じています。「学ぶ、感じる、発言できる」ことが、ケアスタッフの姿勢として大切であることが研修の中の話にありました。学んで、感じることもできて、それを広く発信できるようにならなければチームでのケアは成り立たないと改めて学びました。もの忘れカフェの仲間たちも何かを「発信できる」ことを目指してこれからもがんばっていききたいと思います。

発行者 : NPO もの忘れカフェの仲間たち  
 滋賀県守山市梅田町 2-1-303 077-582-6032  
 発行日 : 平成26年3月1日